

東海(医)

001

2025年度

総合型選抜 医学部医学科  
(希望の星育成)

《小論文》

— 2024年10月19日 —

## 小論文課題

以下の文章を読んで、下記の問いに答えてください。

落ち着いて考えてみれば、この世に生を受けた人間の死亡率は100%です。たとえ、がんが根治できても永遠のいのちが保証されるわけではないのです。人生の長さが限定されてしまうのは悲しいことですが、決して短くはない残された時間をどのように過ごすかに目を向けなければいけません。

「終わりよければすべてよし」といわれます。人生を決めるのは、人生の最期＝人生の終わり方という見方もあると思います。どんなに名誉と地位と財産があっても、意に反する最期を迎えては幸せな人生だったとはいえません。

「死」を意識することなく、ある日突然ポックリ逝きたいという方がいます。一方、人生の終わりは時間をかけて自分自身で悔いなく整理してから逝きたいという方もいます。がんは人生の終わりを規定してしまう「恐ろしい」疾患です。しかし、人生の終わりを準備する時間を与えてくれ、その舞台の準備もできる病気ということもできます。

出典：大島和也、岩瀬哲 編著『がんでも歩こう！キャンサージャーニーを豊かにする運動のすすめ』日経メディカル開発

### (問い)

人生の最期を迎えつつある人のために医師が果たす役割について、あなたの考えを800字以内で述べてください。